

# 二項係数についての入試問題から

うら とし お  
裏 俊男

## §1. はじめに

過去、その年の西暦年を盛り込んだ入試問題がしばしば出題されてきた。今年西暦 2015 年は、

$$(2015)_{10} = (11111011111)_2$$

という特徴があった。

これを使ったなんらかの出題があるのではと予想(期待?)していたが、今年の東大入試の1問

『 ${}_{2015}C_m$  が偶数となる最小の  $m$  を求めよ』

はこの特徴に関連した出題だった。

## §2. 解法

$${}_{2015}C_m = \frac{2015!}{m!(2015-m)!}$$

が 2 の倍数かどうかは、右辺を素因数分解し、素因数 2 の冪を調べればよい。

$n$  以下の自然数のうち、 $k$  の倍数であるものの個数は

$$\left[ \frac{n}{k} \right] \quad ([ ] \text{ はガウス記号})$$

であるから、階乗  $n!$  を素因数分解したときの、素因数  $p$  の冪は

$$\sum_{k=1}^{\infty} k \cdot \left( \left[ \frac{n}{p^k} \right] - \left[ \frac{n}{p^{k+1}} \right] \right) = \sum_{k=1}^{\infty} \left[ \frac{n}{p^k} \right]$$

で求められた。

(実際は有限和であり、和をとる範囲  $k=1 \sim \infty$  の  $\infty$  は大げさだが、詳しく書くのも面倒だからそのまま...)

したがって、 ${}_{2015}C_m$  を素因数分解したときの、素因数 2 の冪は

$$\begin{aligned} & \left[ \frac{2015}{2} \right] + \left[ \frac{2015}{2^2} \right] + \left[ \frac{2015}{2^3} \right] + \dots \\ & - \left\{ \left[ \frac{m}{2} \right] + \left[ \frac{m}{2^2} \right] + \left[ \frac{m}{2^3} \right] + \dots \right\} \\ & - \left\{ \left[ \frac{2015-m}{2} \right] + \left[ \frac{2015-m}{2^2} \right] + \left[ \frac{2015-m}{2^3} \right] + \dots \right\} \end{aligned}$$

これは

$$\begin{aligned} & = \left\{ \left[ \frac{2015}{2} \right] - \left[ \frac{m}{2} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2} \right] \right\} \\ & + \left\{ \left[ \frac{2015}{2^2} \right] - \left[ \frac{m}{2^2} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^2} \right] \right\} \\ & + \left\{ \left[ \frac{2015}{2^3} \right] - \left[ \frac{m}{2^3} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^3} \right] \right\} \\ & + \dots \end{aligned}$$

と変形し、

$$[a+b] - [a] - [b] \geq 0$$

だから、この各  $\{ \}$  のいずれかが 0 にならないような最小の  $m$  を求める、という考えに導かれる。

この数の特徴を活かせば、「最小の」はひとまずおいて、

$$\left[ \frac{2015}{2^k} \right] - \left[ \frac{m}{2^k} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^k} \right] \neq 0$$

となる  $m$  の候補として、直ちに  $m=2^5$  があげられる。実際、

$$\begin{aligned} (2015)_{10} &= (11111011111)_2 \\ &= (11111100000)_2 - 1 \\ &= 2^{10} + 2^9 + \dots + 2^5 - 1 \end{aligned}$$

より、 $m=2^5$ 、 $k=6$  のとき

$$\begin{aligned} \left[ \frac{2015}{2^6} \right] &= \left[ \frac{2^{10} + 2^9 + \dots + 2^5 - 1}{2^6} \right] \\ &= \left[ \frac{2^{10} + 2^9 + 2^8 + 2^7 + 2^6 + \frac{2^5 - 1}{2^6}}{2^6} \right] \\ &= 2^4 + 2^3 + 2^2 + 2 + 1 \end{aligned}$$

$$\left[ \frac{m}{2^6} \right] = \left[ \frac{2^5}{2^6} \right] = 0$$

$$\begin{aligned} \left[ \frac{2015-m}{2^6} \right] &= \left[ \frac{2^{10} + 2^9 + 2^8 + 2^7 + 2^6 - 1}{2^6} \right] \\ &= \left[ \frac{2^{10} + 2^9 + 2^8 + 2^7 + \frac{2^6 - 1}{2^6}}{2^6} \right] \\ &= 2^4 + 2^3 + 2^2 + 2 \end{aligned}$$

よって、 $m=2^5$  とすると、 $k=6$  に対して

$$\left[ \frac{2015}{2^k} \right] - \left[ \frac{m}{2^k} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^k} \right] = 1 \neq 0$$

あとは、 $m < 2^5$  である  $m$  に対して、

$$\left[ \frac{2015}{2^k} \right] - \left[ \frac{m}{2^k} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^k} \right] = 0$$

( $k=1, 2, 3, \dots$ ) (\*)

となることが §3 のようにして容易にわかるので、 $m=2^5$  が求める答、ということになる。

### §3. 2進数とシフトレジスタ

自然数は計算機の中で、2進数の形で扱われる。2015 は 11 ビットのレジスタによって、

$$\boxed{111111011111}$$

と表されている。

計算機の中では、「÷2」という計算は、レジスタの中の値を1つ右にずらす(1ビット右シフトする)ことで実現される：

$$0 \rightarrow \boxed{111111011111} \rightarrow \times$$

$$\therefore \boxed{011111101111}$$

ここで、最上位のビットには0が入り、最下位のビットは捨てられる。「÷ $2^k$ 」なら $k$ 回( $k$ ビット)右シフトすればよい。すなわち、

$$\left[ \frac{l}{2^k} \right] = \text{値 } l \text{ の入ったレジスタを } k \text{ ビット右シフトしたもの}$$

さて、 $m < 2^5$  である整数  $m$  は計算機の中で、

$$\boxed{000000m_4m_3m_2m_1m_0}$$

(ただし、各  $m_i=0, 1$ )

と表される。

2015 の 2 進数表現は都合よく下 5 桁はすべて 1 なので、 $2015-m$  は、

$$\boxed{111110m'_4m'_3m'_2m'_1m'_0}$$

(ただし、各  $m'_i=1-m_i$ )

と表される。

したがって、以下の 3 つのレジスタを同時にどのように  $k$  ビット右シフトしようとも、上 2 つのレジスタの和は、3 つ目のレジスタの値に等しい。

$$m = \boxed{000000m_4m_3m_2m_1m_0}$$

2015 -  $m$

$$= \boxed{111110m'_4m'_3m'_2m'_1m'_0}$$

$$2015 = \boxed{111111011111}$$

すなわち

$$\left[ \frac{m}{2^k} \right] + \left[ \frac{2015-m}{2^k} \right] = \left[ \frac{2015}{2^k} \right]$$

$$\therefore \left[ \frac{2015}{2^k} \right] - \left[ \frac{m}{2^k} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^k} \right] = 0$$

((\*) の証明終)

$m=2^5, k=6$  のとき

$$\left[ \frac{2015}{2^6} \right] - \left[ \frac{m}{2^6} \right] - \left[ \frac{2015-m}{2^6} \right] \neq 0$$

であることも、シフトレジスタにのった 2 進数を思い浮かべれば簡単だったかもしれない：

$$2015 = \boxed{111111011111}$$

$$2^5 = \boxed{000001000000}$$

$$2015 - 2^5 = \boxed{111110111111}$$

↑ ← ← ← ← ← ←

6 ビット右シフトしたところで

$$\left[ \frac{2015}{2^6} \right] - \left[ \frac{2^5}{2^6} \right] - \left[ \frac{2015-2^5}{2^6} \right] \neq 0$$

### §4. 類題

数  $n$  が同様の特徴をもつ場合の  ${}_n C_m$  について類題を考えてみた：

『 ${}_{2105} C_m$  が 3 の倍数となる最小の  $m$  を求めよ』

答.  $m=2 \cdot 3^4=162$

(解)  $(2105)_{10} = (2212222)_3$  である。

3 進数を格納できるレジスタがあったとすると、

$$\left[ \frac{l}{3^k} \right] = \text{値 } l \text{ の入ったレジスタを } k \text{ 回右シフトしたもの}$$

であり、

$$2105 = \boxed{22122222}$$

$$2 \cdot 3^4 = \boxed{00200000}$$

$$2105 - 2 \cdot 3^4 = \boxed{21122222}$$

だから、5 回右シフトすれば、

$$\left[ \frac{2105}{3^5} \right] - \left[ \frac{2 \cdot 3^4}{3^5} \right] - \left[ \frac{2105 - 2 \cdot 3^4}{3^5} \right] \neq 0$$

よって、 ${}_{2105} C_{2 \cdot 3^4}$  は 3 の倍数である。

また、 $m < 2 \cdot 3^4$  とすると

$$m = \boxed{00m_4m_3m_2m_1m_0}$$

ただし、 $m_4=0, 1 \quad m_3, m_2, m_1, m_0=0, 1, 2$

よって、

$$2105 - m = \boxed{22m'_4m'_3m'_2m'_1m'_0}$$

$$m'_4=1-m_4 \quad m'_i=2-m_i \quad (i=3, 2, 1, 0)$$

何回右シフトしようとも ( $k=1, 2, 3, \dots$ )

$$\left[ \frac{m}{3^k} \right] + \left[ \frac{2105-m}{3^k} \right] = \left[ \frac{2105}{3^k} \right]$$

だから、

$$\left[ \frac{2105}{3^k} \right] - \left[ \frac{m}{3^k} \right] - \left[ \frac{2105-m}{3^k} \right] = 0$$

よって、 $2 \cdot 3^4$  が求める最小の  $m$  である。

(東京都立小山台高等学校)